

第3章 緑の将来像と目標

3-1 将来像

みんなではぐくみ、つなぐ 富士山と緑の輝くまち

富士山麓に広がる森林・農地、河川・湧水・海岸などの多様な水辺と一体となった緑、市民が憩う様々な公園、そして街角を彩る花々など、富士山を望む風景の中には多種多様な緑がはぐくまれています。

本市では、昭和48(1973)年に「富士市緑化基本計画」を策定して以来、市民、事業者、行政が協力して、緑あふれるまちづくりを進めてきました。

50年以上にわたり蓄積された緑の資産を、市民・事業者や、多様な担い手が連携・協働し、みんなではぐくみ、次世代につないでいくことと、富士山を望むまちを彩る多種多様な緑の質の向上によって、より一層緑が輝き、地域の Well-being を高めるまちを目指します。



3-2 目標

目標 1

富士山を望むまちの緑をつなぐ

気候変動対策、生物多様性の確保、景観形成、防災・減災、健全な水循環の保全などの機能を持つ市内の緑を、適切に保全・管理し、「緑の量」を維持していきます。

そのために、整備・保全した緑の量を示す「緑地面積」（施設緑地と地域制緑地の合計）と、衛星画像等により解析した緑に覆われた区域の面積の割合を示す「緑被率」を指標とし、減少傾向にある緑の量の「維持」を目標とします。緑被率を指標に加えることで、住まい周辺の実際の緑の量を定量的に把握することが期待でき、暮らしの質を支える緑の維持につながります。

表 3.1 目標 1 の指標及び目標値

目標指標（最終アウトカム）	現状	目標
①計画対象区域（都市計画区域）における緑地面積 ^{※1}	3,254ha	維持
②緑被率 ^{※2} （市街化区域）	23%	維持

※1：以下の緑地を対象とし、面積の総計（区域の重複を除く）を指標とします。

施設緑地：都市公園、運動場、墓園、広場、その他公共空地、市民農園

地域制緑地（ただし、農振農用地区域、地域森林計画対象民有林などを除く）

※2：都市や地域において、総面積に対する樹木や芝生などの緑が占める割合

現状は「日本全国の町丁目別緑被率オープンデータ^{*}」を用いて算出し、町丁目の一部が市街化区域に含まれる場合は、含まれる面積により緑被面積を按分しています。

現状や目標は、国土交通省が開発を進めている簡易な算定手法が地方公共団体に提供された段階で、本市の市街化区域の緑被率を改めて算定し、必要に応じ目標を見直します。

^{*} Kiyono Tomoki, Fujiwara Kunihiro, & Tsurumi Ryuta. (2021). Vegetation cover fraction in each town block across Japan (1.0.1) [Data set]. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.5553516>

目標 2

みんなでまちの魅力を高める緑をはぐくむ

多様な担い手による地域の緑化、公園の管理・活用など、様々な活動を通じて、緑豊かで魅力あるまちづくりやコミュニティの醸成につなげていきます。

そのために、緑や花を育てる市民活動の活発さに関する市民満足度を指標とし、向上を図ります。効果的な情報発信、活動への支援、子どもたちの体験機会の創出などの取組を計画的に進めることで、30%（現状より 5.1%増加）を目指します。

表 3.2 目標 2 の指標及び目標値

目標指標（最終アウトカム）	現状	目標
緑や花を育てる市民活動の活発さに関する市民満足度	24.9%	30%

3-3 施策の柱

将来像及び目標を実現するため、自然環境や緑の保全、まちなかの緑の充実、市民協働の視点から3つを施策の柱として、取組を進めます。

柱1

緑をまもり
つなぐ

豊かな自然を擁し、富士山を望む景観形成、防災・減災につながる富士山麓の骨格的な自然環境、森林、市街地や水辺、沿岸部などのまとまった緑地とそのネットワークを維持・継承していきます。

中間のアウトカム指標

まとまった緑地とそのネットワークの保全につながる地域制緑地の面積を維持することで、計画対象区域における緑地面積の維持に寄与していきます。

表 3.3 施策の柱1の中間のアウトカム指標と目標値

指標	現況	中間年度	最終年度
地域制緑地の面積※	3,085ha	維持	維持

※農振農用地区域、地域森林計画対象民有林などを除いた総面積（区域の重複を含む）

柱2

緑をいかす

公園や公共空間、まちなかの緑や花を健全に育て、活かしていくことで、暮らしやすく、魅力あるまちづくりにつながっていきます。

中間のアウトカム指標

公園の使いやすさや快適さを向上させ、利活用を進めることで、子どもをはじめ市民の緑への関心を高め、緑の保全や緑をはぐくむ活動に対する意識醸成、参加につなげ、各目標に寄与していきます。

表 3.4 施策の柱2の中間のアウトカム指標と目標値

指標	現況	中間年度	最終年度
公園の使いやすさ 快適さに関する 市民満足度	24.6%	29%以上	33%以上

柱3

みんなではぐくむ

市民・事業者をはじめ、多様な担い手が緑化活動や身近な公園の管理・活用に携わり、緑や花の彩りにあふれ、一人ひとりがWell-beingを実感できるまちを実現していきます。

中間のアウトカム指標

緑をはぐくむ活動に携わる団体数を維持しつつ、活動を活性化していくことで、緑や花を育てる市民活動の活発さの満足度向上に寄与していきます。

表 3.5 施策の柱3の中間のアウトカム指標と目標値

指標	現況	中間年度	最終年度
緑をはぐくむ活動団体数※	378 団体	維持	維持

※公園愛護会など、緑をはぐくむ活動に携わる団体数

3-4 緑の配置方針と将来構造

将来像と目標、本市の上位関連計画における基本的考え方や都市環境の基本方針等を踏まえ、緑の将来構造として、まもりつなぐ緑、いかす緑、はぐくむ緑を次のように定めます。



図3.1 緑の将来構造

(1) まもりつなぐ緑

本市全体の骨格となる緑を位置付け、保全を図ります。

○自然環境、森林

富士・愛鷹山麓、岩本山、野田山等の山地に連なる樹林地について、適切に管理をすることで、保全を図り、富士山を望む広大な自然景観の形成、生物の生息・生育環境の保全、健全な水循環の保全（水源涵養）等の機能を維持していきます。

○山麓につらなる農地、湿地及び周辺の農地

富士・愛鷹山麓に広がる農地や岩本山をはじめとする市街地周辺の農地、浮島ヶ原とその周辺の湿地帯や農地について保全を図り、富士山を望む自然景観・田園景観の形成、雨水の貯留・浸透などの機能を維持していきます。

○水辺環境

山と市街地、海辺をつなぐ富士川、潤井川、滝川、沼川及び富士早川などの水辺の緑と、海辺の緑を適切に管理し、潤いある景観形成などの機能を維持していきます。



(2) いかす緑

拠点となる公園緑地や湧水地、多くの人を訪れるエリアや働くエリアを位置付け、公園の活用や緑の健全育成に取り組みます。

○緑と水の拠点

レクリエーションの拠点、防災上の重要な機能として位置付けられた公園、富士山ビューポイントなど多様な機能を持つ公園緑地を緑と水の拠点に位置付け、適切な管理を行うとともに、市民・事業者と協力し、まちの魅力を高める場としての活用を進めます。

また、今泉・原田・吉永地区の湧水地を水と緑の拠点に位置付け、湧水の保全、水と緑に親しめる空間形成を進めます。

○緑と花で訪れる人をもてなす、にぎわいのある商業・業務地

多くの人を訪れるまちなかの商業・業務地を位置付け、公共空間における緑の育成、民有地の緑化を推進し、緑と花に彩られたまちなみ景観の形成や歩きやすい環境づくりを推進していきます。

○工場地等の緑化を誘導していくエリア

工業の盛んな地域の中からエリアを設定し、事業者の緑への参画を支援することで、周辺環境の保全などにつなげていきます。



(3) はぐくむ緑

市民、事業者、各種団体など、本市の緑化活動に協力する全ての人々（以下「多様な主体」という。）が緑とともに活動の担い手やまちのコミュニティをはぐくんでいけるよう、情報発信や緑と花をはぐくむ体験や活動、緑と花にあふれる暮らしづくりを推進します。

○緑と花を活かした暮らしづくりを特に進めるエリア

暮らしの場である住宅地等を位置付け、多様な主体による、緑と花を活かしたWell-beingを実感できる暮らしづくりを支援していきます。

○緑と花の活動区域

緑と花の情報発信に取り組み、市民が緑と花にふれあう機会を創出し、はぐくむ取組への意識を高める場を充実させ、多様な主体の活動がはぐくまれ、次代につないでいけるよう支援をします。また、富士山を望む緑と花の景色を活かしたシティプロモーションや観光振興などにつなげていきます。

○緑化重点地区

都市機能誘導区域（まちなか）とし、緑と花をはぐくむ体験や活動、緑と花にあふれる暮らしづくりを推進します。



第4章 施策

4-1 施策の構成



	横断的な視点		
	カーボンニュートラルへの貢献	ネイチャーポジティブへの貢献	Well-beingの向上への貢献
富士・愛鷹山麓に広がる自然豊かな森林を適正に管理し、自然環境の保全、森林の土砂災害防止機能の維持につなげる	●	●	●
多様な生物の生息・生育環境となる緑地を保全する		●	
富士山の映える緑豊かな景観をつくる、市街地の内外の樹林や樹木を保全する	●	●	
河川、海岸などの水辺の緑を適切に保全・管理する水循環を保全する		●	●
景観形成、雨水流出抑制など多面的機能を持つ農地を保全・活用する			●
子どもをはじめ多くの人々が利用しやすい環境づくり、施設・植栽の適切な管理、民間活力との連携などにより公園・緑地の利活用を進める	●	●	●
公園の規模に応じた役割分担に基づき公園ごとの特色づくりを進める	●	●	●
ゆとりある住環境、公共空間の緑の健全育成、工場等における緑化の誘導を通じ、富士山の映える緑豊かなまちなみをつくる	●	●	●
雨水の貯留・浸透につながる緑を保全、創出する			●
緑と花に関心を持つきっかけとなる情報発信を進める			●
子どもが緑や花にふれあい、体験する場や機会を設ける			●
緑と花にあふれる暮らしづくりを支援する			●
みんなで緑と花がつなぐ活動を支える			●

アクションプランの作成・取組の実行